

学生による企画展示

共立女子大学家政学部創設60周年記念

刺繡の美

— 共立女子職業学校の刺繡教育 —



平成21年9月26日(土) ~ 平成21年11月12日(木)
休館: 日曜・祝祭日及び10月15・16・19・20日

共立女子大学 神田一ツ橋キャンパス 本館1階展示室
東京都千代田区一ツ橋2-2-1 TEL 03-3237-2425

交通

- ・東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・都営地下鉄新宿線
「神保町」駅下車 A8 出口から徒歩 1 分
- ・東京メトロ東西線「竹橋」駅下車 1b 出口から徒歩 3 分

学生による企画展示
共立女子大学家政学部創設60周年記念

刺繍の美

— 共立女子職業学校の刺繍教育 —

平成21年9月26日(土) ~ 平成21年11月12日(木)

本学は、明治19年3月、「共立女子職業学校」として、本郷東竹町の渡辺辰五郎の裁縫私塾の一隅からスタートした。創立に携わったのは、宮川保全、鳩山春子、永井久一郎(永井荷風の父)、服部一三、手島精一など34名。「共立」の校名は、この人々によって共同設立されたことに由来する。以後歴史を重ね、昭和22年、わが国の新しい教育制度が施行されるに伴い、昭和24年4月、新制大学の「共立女子大学」として再スタートするとともに、家政学部が設置された。本年はその60周年に当たる。

明治時代は万国博覧会などにおいて日本の刺繍が賞賛を得ていた時代であり、本学においてもこれが女子教育に取り入れられ、開校から2年後の明治21年、生徒制作品が初めて明治天皇にご覧に入れられ、その天

覧は天皇御在世中22回にも及び、その結果莫大な下賜金、校地校舎までも下賜されたという歴史を持っている。残念ながら創立時からの日本刺繍は大正12年の関東大震災で焼失したが、その後、大正14年から第二次世界大戦が始まる昭和16年までに制作された作品および教育資料は、幸いにも戦火を逃れ、保管されて現在に至っている。

女性の社会進出が叫ばれ始めた時代、共立女子職業学校で学び、刺繍技術を身に付けて社会進出を果たした女子学生は沢山いたと思われる。本展示では家政学部60周年を記念して、共立女子職業学校時代以来、本学の女子教育の一端を担ってきた刺繍の諸作品の他、そうしたものの手本とされたであろう伝統的な刺繍作品も併せて展示する。



共立女子職業学校教場図
『風俗画報』第193号(明治32年)所収



刺繍実習(大正12年)



紺縮緬地流水牡丹風景模様振袖 明治時代、19世紀



鞍馬天狗図刺繍衝立 大正~昭和時代、20世紀



虎図刺繍衝立 大正~昭和時代、20世紀